

総 括 質 疑 並 び に 一 般 質 問 (個 人 質 問)

【質問日】 令和8年6月22日 (月)

質問 順位	質 問 者	質 問 事 項
1	井 上 勝 博	1 肥薩おれんじ鉄道の安全確保について ・ 肥薩おれんじ鉄道は、川内駅を起終点として運行され、市民の通勤、通学、通院、買い物などを支える重要な公共交通機関である。出水市内の米ノ津川に架かる広瀬川橋梁は、建設から100年以上が経過し、老朽化に伴う補修工事が必要とされている。しかし、漁業協同組合との協議をめぐる問題から、補修工事を長期間実施できない状態が続いているとされる。この橋梁で事故が発生すれば、川内駅から乗車した薩摩川内市民が被害を受ける可能性がある。また、事故に至らなくても、橋梁の使用停止や長期運休となれば、市民生活や観光、物流、地域経済に重大な影響を及ぼす。 - ア 広瀬川橋梁の老朽化及び補修工事の遅れについて、本市は沿線自治体として、肥薩おれんじ鉄道からどのような説明を受けているか。 - イ 橋梁の現在の安全性、運行停止に至る可能性及び補修工事を完了すべき期限について、具体的な報告を受けているか。 - ウ 補修工事が更に遅れた場合、本市の通勤、通学、観光及び貨物輸送にどのような影響が生じると認識しているか。 - エ 鹿児島県、熊本県、沿線7市町及び肥薩おれんじ鉄道で構成する協議の場において、この問題を一地域の問題ではなく、全線の安全運行に関わる共通課題として正式に取り上げるべきではないか。 - オ 広瀬川橋梁だけでなく、全線の橋梁について、建設年、健全度、補修の必要性、補修予定時期及び概算事業費を明らかにするよう求めるべきではないか。 - カ 漁業権や河川環境に十分配慮しながら、安全確保を最優先に問題を解決するため、第三者を含む調整の場を設けるよう関係機関に働きかける考えはないか。 2 データセンター計画について ・ 入来工業団地及び川内港背後地で計画されているデータセンターについて、次の点を確認する。 - ア 市民負担について伺う。 ・ 両計画に伴い、本市が負担する道路、上下水道、電力関連設備などのインフラ整備費及びその他の関連経費を、どのように見込んでいるか。 - イ 電力需要と川内原発との関係について伺う。 ・ 両計画による電力需要をどのように把握しているか。また、川内原発で発電された電力の活用及び原発の運転継続との関係を、どのように認識しているか。 - ウ 水利用について伺う。 ・ データセンターの建設及び運営に必要となる水の使用量を、どのように見込んでいるか。また、市民生活、農業及び既存事業者の水

		利用に影響を及ぼすおそれはないか。 エ 情報公開と住民合意について伺う。 計画の規模、事業主体、電力及び水の使用量、市の財政負担、雇用効果並びに環境への影響について情報を公開し、市民説明会を開催するなど、市民の理解と合意を得ながら進める考えはないか。 3 学校給食費の無償化の財源について (1) 国が、学校給食費の基準額を超える部分に「重点支援地方交付金」を活用できるとの考えを示したことについて、本市はどのように認識しているか。 (2) 食材価格の高騰が続く中においても、給食の質や量を低下させることなく、保護者負担を生じさせないため、国の交付金や一般財源を活用して必要な財源を確保する考えはあるか。 (3) 県内で24の自治体が中学校までの給食費無償化に踏み切っている。学校給食費の無償化を、中学校まで拡大するよう国に求めるとともに、本市独自で実施する考えはないか。
2	松 澤 力	1 自治会の更なる活性化に向けて (1) 本市の自治会加入率の推移を伺う。 (2) 本市の自治会が活性化することで、行政運営面や財政面にどのようなプラス効果があると分析されているか伺う。 (3) 現在の担当窓口での自治会加入の案内方法や自治会情報の伝達状況について伺う。 (4) 更なる自治会加入の促進に向けて、鹿児島市の取組を参考に、若い世帯に魅力的な「自治会新規加入特典クーポン」の配布を本市も検討できないか伺う。 (5) 自治会運営の効率化に向けた仕組みづくりについて ア 自治会運営における自治会役員の負担軽減に向けて、自治会用の地域交流アプリ等の導入により、回覧板等の配布作業軽減や災害時安否確認機能を向上させる取組を検討できないか伺う。 イ 自治会等の会計担当の方々が、自治会費集金で多くの現金を扱うことやその受渡しの負担を軽減するため、地域交流アプリやつんPay等を活用した自治会会計等のキャッシュレス対応の仕組みづくりも検討できないか伺う。 2 児童・生徒の交通面における安全性向上に向けて (1) 部活動・スポーツ少年団等の活動における送迎時の安全確保について ア 磐越自動車道で発生した部活動の試合送迎時のバス事故を受けて、本市の部活動・スポーツ少年団等の活動における送迎時の安全体制について伺う。 イ 一部の指導者や保護者・教員等に送迎時の過度な負担が常態化すれば、児童・生徒の送迎時に重大な事故のリスクが高まるが、本市の現状を伺う。 ウ 今後、児童・生徒のスポーツ活動での送迎時における安全を守りながら、持続可能な部活動・スポーツ少年団等の活動を継続していくための本市の考えを伺う。 (2) 本市の小・中学校周辺での安全性の向上について ア 本市の小・中学校において、正門をはじめとする学校周辺等に、ゾーン30・ゾーン30プラス等の児童・生徒の交通安全を守るための

		対策が実施されている学校がどれくらいあるか。 イ 現状では、ゾーン30・ゾーン30プラス等の交通安全対策がない学校の中で、現場から対策の必要性を求める声はあるか。 ウ 雨天時等、本市の小・中学校の学校周辺等では、保護者による送迎の車が混雑し、児童・生徒の安全面でも課題があるが、今後の課題解決を目指していくための教育長の考えを伺う。 (3) 自転車通学等の安全性向上や駐輪場の改善に向けて ア 2026年4月に施行された改正道路交通法により、自転車通学・自転車通勤等を行う場合、自転車運転者はどのような点で注意が必要か、改めて法改正で変更となったポイントを伺う。 イ 自転車通学の生徒たちや登下校の見守りをされる方々に、自転車での移動における法改正での変更点を、幅広く周知していくための方法について伺う。 ウ 川内北中学校の保護者などから、中学校の生徒用の駐輪場が不足しているとの声をいただいているが、駐輪場が不足している本市の学校はあるか。また、そのような課題があれば、駐輪場不足の解消に向けて対応できないか伺う。 3 消防団の更なる活性化に向けて (1) 本市の消防団における方面隊ごとの団員の平均年齢の現状を伺う。 (2) 消防団の新規団員募集の取組について、各地区コミュニティ協議会や自治会との連携の方向性を伺う。 (3) 本市の消防団において、総務省消防庁が重点的な取組の一つとしている学生団員の募集・強化の検討ができないか伺う。 (4) 消防庁の消防団員の確保に向けた対策である「消防団の力向上モデル事業」や「消防団ドローン・DX推進事業」等の事業活用について、本市においても今後検討できないか伺う。 (5) 消防団の更なる活性化や新規団員の増加に向け、本市の取組の考えを伺う。 (6) 川内中央北分団・中郷部の車庫詰所の更新に向けて、その後の検討状況や今後のスケジュールを伺う。
3	福田 俊一郎	1 川内港背後地整備調査事業について (1) 補正予算案と調査費の倍増について伺う。 (2) 多数の業務委託の進捗状況と事業完了の見通しを伺う。 (3) 建設規模及び関連企業の進出について伺う。 (4) 電力や水などのインフラ需要の具体性について伺う。 (5) 電力確保の段階的整備と将来的な大容量（350MW）への対応について伺う。 2 甌ミュージアム事業について (1) 補正予算案「甌ミュージアム事業」の追加計上の理由を伺う。 (2) 甌ミュージアムの完成形と累積投資の見通しを伺う。 (3) 公共施設マネジメントと将来の維持管理リスクを伺う。 (4) 甌ミュージアム事業の自主財源の確保と数値目標（EBPM）の妥当性を伺う。 (5) 新規事業「研究交流事業」の具体的内容と透明性について伺う。 (6) 甌ミュージアム事業における「研究」と「振興」の役割分担を伺う。 ア 学術研究の主体は

		イ 自治体としての役割の再定義は ウ 連携によるコスト負担の適正化は (7) 自治体の経営者として市長の見解を伺う。 3 補正予算編成の在り方について (1) 来訪神行事保存・振興全国協議会研修会鹿児島大会事業について伺う。 (2) 補助内示を理由とした新規事業の補正計上について伺う。 (3) 財政調整基金70億円確保の目標と歳出抑制の規律について伺う。 (4) 補正予算編成の運用ルールの明確化について伺う。 (5) 市長の経営ビジョンを伺う。
4	犬井美香	1 子どもの放課後の居場所づくりと保護者の就労支援について (1) 本市における放課後児童クラブの利用実態について伺う。 ア 令和8年4月1日現在の放課後児童クラブ数、全体の定員数、登録者数及び待機児童数は イ 児童クラブへの入所に係る申込受付時期・選考時期・結果通知時期の現状は ウ 希望する児童クラブに入所できなかった児童や保護者の状況をどのように把握しているか。 エ 児童クラブに入所できなかったことによる保護者の離職や就労形態の変更などについて実態把握を行っているか。 (2) 子育て支援と保護者の就労支援について伺う。 ア 放課後児童クラブを子育て支援施策だけでなく、就労支援施策としてどのように位置付けているか。 イ 女性活躍推進や人材確保の観点から、関係部局との連携をどのように図っているか。 (3) 子どもの放課後の居場所づくりについて伺う。 ア 本市の放課後子ども教室の現状と課題は イ 放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携について、どのように考えているか。 ウ 長期休業期間も含め、すべての子どもが安全・安心に過ごせる居場所づくりについて、どのように考えているか。 エ 福祉こども部だけの課題ではなく、教育、女性活躍、人材確保、産業振興なども含めた横断的な政策課題として取り組む必要性を感じるが、市長の考えを伺う。 2 子育て支援施策の利用促進と子育て家庭への伴走支援について (1) ファミリー・サポート・センター事業について伺う。 ア 本市におけるファミリー・サポート・センター事業の利用状況及び地域ごとの課題をどのように認識しているか。 イ おねがい会員及びまかせて会員の過去3年間の登録状況と利用実績は ウ 制度を必要とする子育て世帯へ周知し、利用につなげるための取組の現状と課題は エ 妊娠期から子育て期まで切れ目なく支援する観点から、伴走型相談支援とファミリー・サポート・センター事業との更なる連携強化を図る考えはないか。 (2) 子育て応援券の活用について伺う。 ア 子育て応援券の過去3年間の利用状況及び利用者の声をどのように

		把握しているか。 イ 子育て家庭が抱える課題は、経済的支援だけでなく、家事や育児の負担、孤立感への対応も重要と考えるが、市の認識は ウ 産後の家事負担軽減や育児支援の観点から、子育て応援券の対象事業者を拡充する考えはないか。 (3) 保護者が孤立せず安心して子育てできる環境を整えるための子育て支援制度を、必要とする人に確実に届けるため今後どのような子育て支援を目指していくのか、市長の考えを伺う。 3 組織改編と持続可能な行政運営について (1) 組織改編後の現状をどのように評価しているか、市長に伺う。 (2) 市民サービスや庁内連携について、どのような検証を行い、課題が確認された場合の見直しの考え方を市長に伺う。 (3) 職員が働きやすく、能力を発揮できる組織づくりにおける若手職員や中堅職員の人材確保と定着に向けた課題への認識を市長に伺う。 (4) 人口減少社会において、限られた職員数で持続可能な行政運営を行うためにどのような組織を目指しているのか市長に伺う。
--	--	---